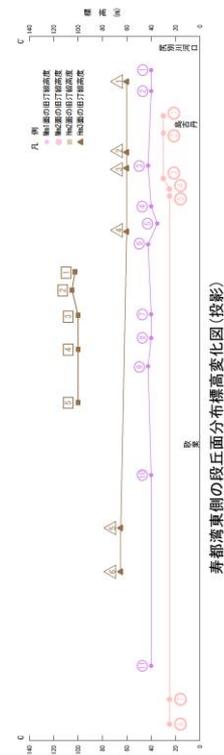
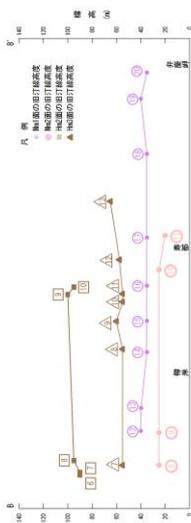
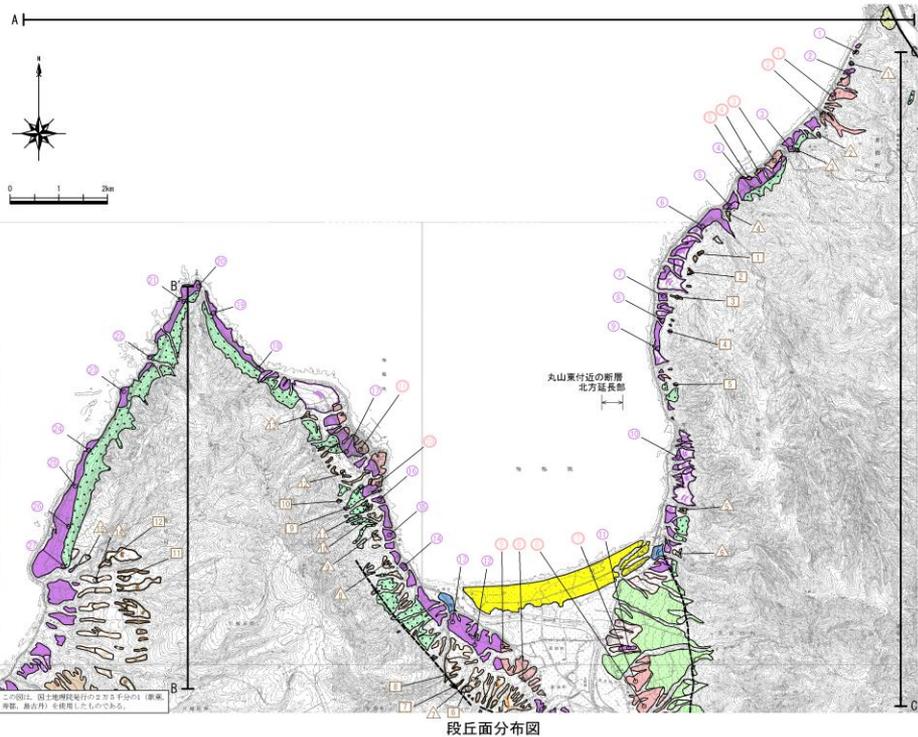
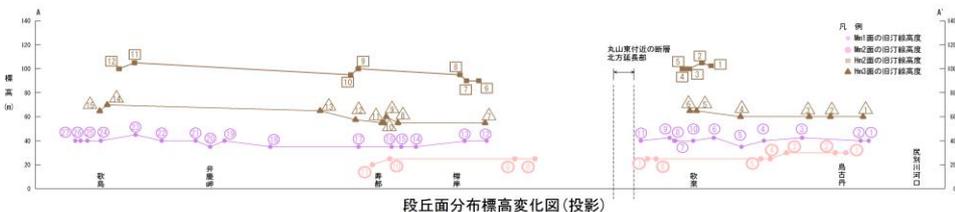


岩内堆周辺の断層群の概要

■ 寿都湾周辺の海成段丘の分布標高

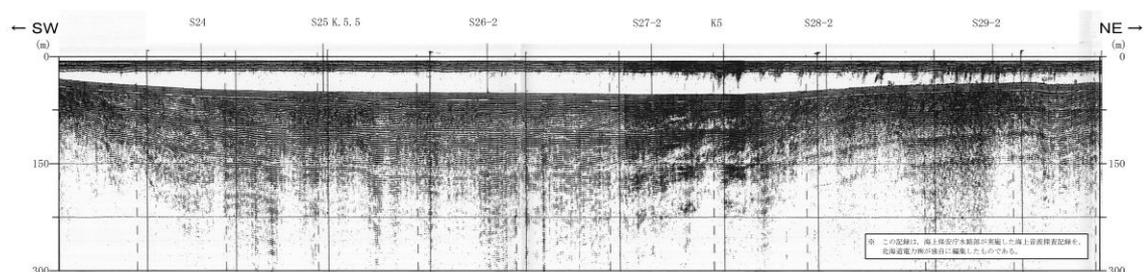
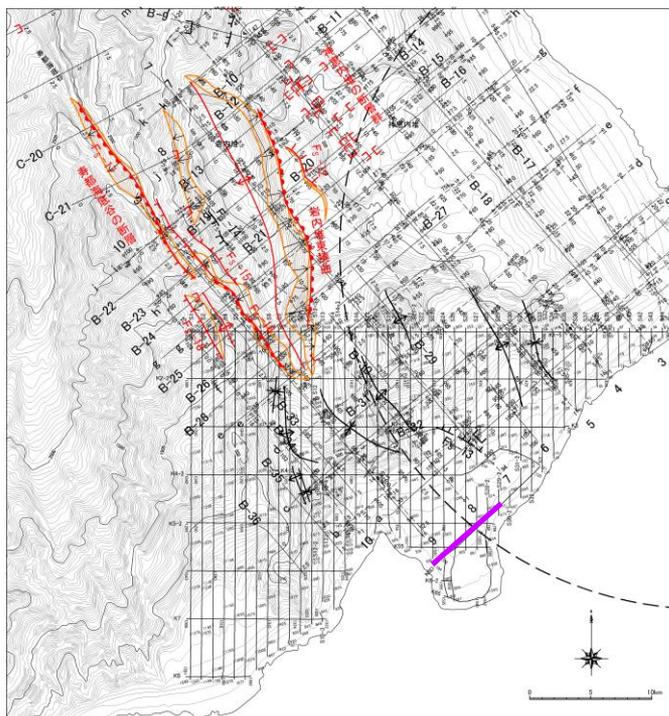
寿都湾周辺には、高位からHm2段丘面、Hm3段丘面、Mm1段丘面、Mm2段丘面が分布している。このうちMm1段丘面は、朱太川河口より西側では、地形面の保存が良く、寿都湾西岸から弁慶岬西方の島牧村歌島付近まで標高約35m～約40mで分布し、標高変化が小さい。一方、朱太川河口より東側でも、西側と比較して、湾奥部で扇状地性の堆積物や河川の影響を受け、地形面の保存は良くないものの、寿都町歌棄町～寿都町磯谷町付近までMm1段丘面が標高約35m～約45mで分布し、西側同様に標高変化が小さい。また、東西方向についても、寿都湾内及び周辺において、寿都湾を挟んでMm1段丘面の高度差は認められない。

なお、文献(小池ほか(2001)⁽²⁾、小疇ほか(2003)⁽³⁾)においても、寿都湾兩岸の海成段丘の分布標高に差が認められないとされている。

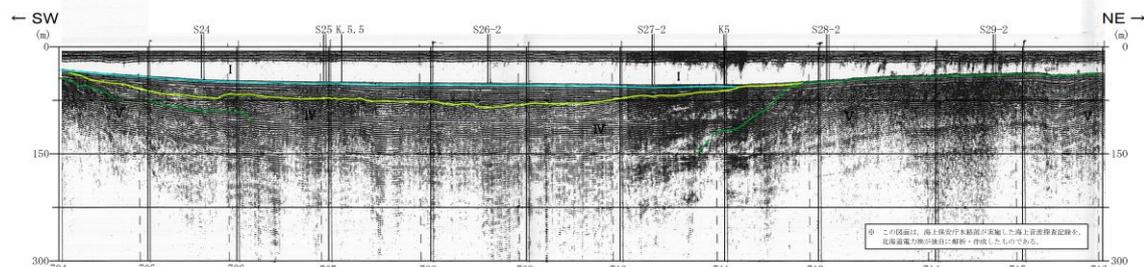


岩内堆周辺の断層群の概要

■岩内堆周辺の断層群の南方延長（測線K-6D）

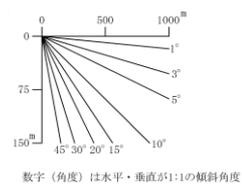


音波探査記録



地質断面図

IV層に丸山周辺で認められるような背斜が認められない。



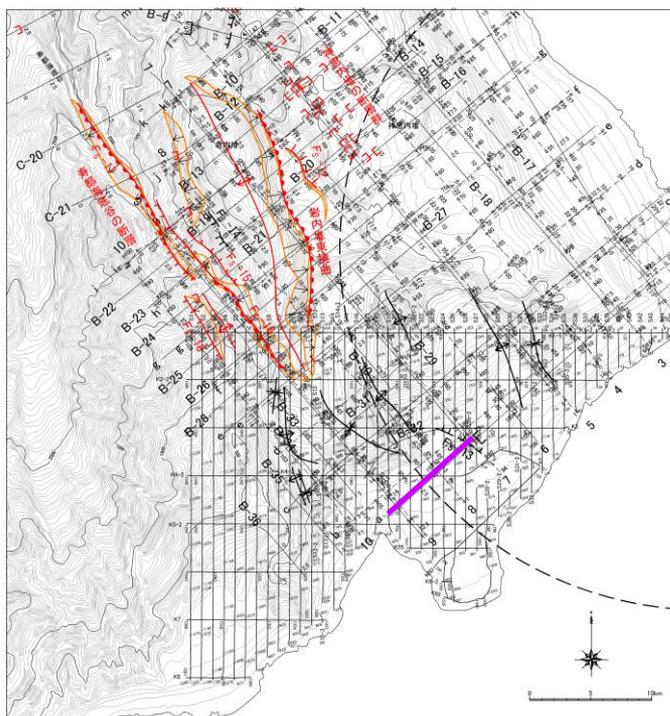
数字(角度)は水平・垂直が1:1の傾斜角度

V.E. 約5.7

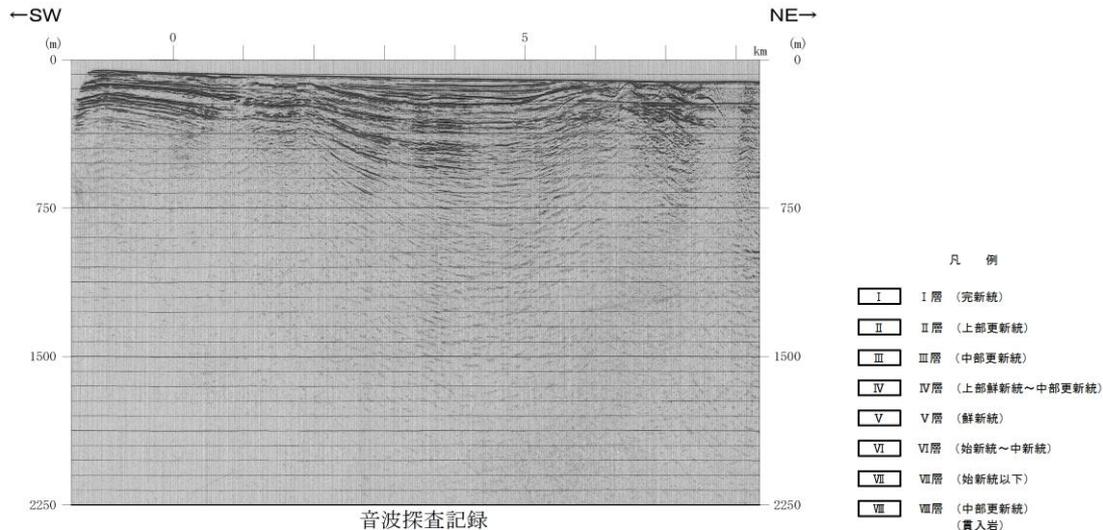


岩内堆周辺の断層群の概要

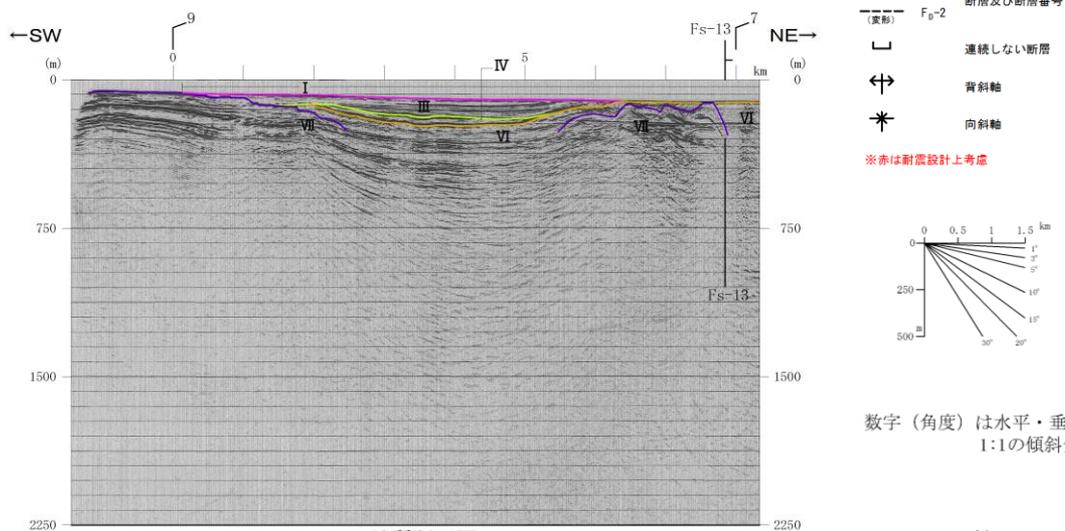
■ 岩内堆周辺の断層群の南方延長（測線a）



測線K-6Dと同様な構造が連続しているものと考えられる。



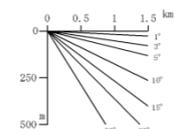
音波探査記録



地質断面図

- 凡 例
- I I層 (完新統)
 - II II層 (上部更新統)
 - III III層 (中部更新統)
 - IV IV層 (上部鮮新統～中部更新統)
 - V V層 (鮮新統)
 - VI VI層 (始新統～中新統)
 - VII VII層 (始新統以下)
 - VIII VIII層 (中部更新統) (貫入岩)
- ~ 地震境界
- F_s-10 断層及び断層番号
(変形) F_s-2
- ┌ 連続しない断層
- ↔ 背斜軸
- * 向斜軸

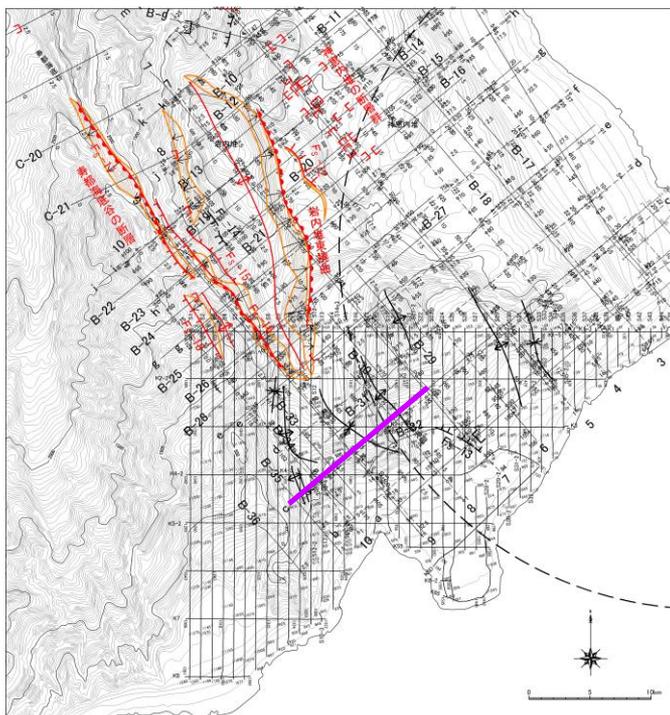
※赤は耐震設計上考慮



数字 (角度) は水平・垂直が 1:1の傾斜角度

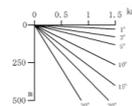
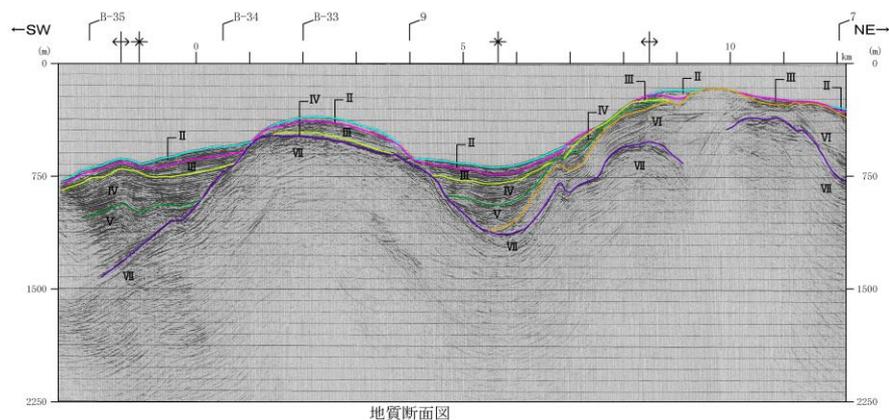
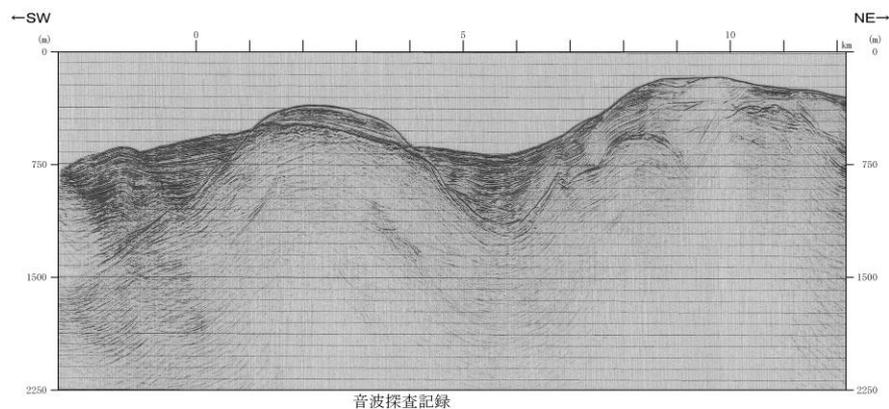
岩内堆周辺の断層群の概要

■ 岩内堆周辺の断層群の南方延長（測線c）



測線d及び測線B-31で認められる盆状の地形の南部に位置し、南東側からの谷の浸食の影響が認められる。

弁慶岬の北西に不明瞭な変形が認められるが、基盤のVII層からの累積は認められないように見える。



数字（角度）は水平・垂直が1:1の傾斜角度

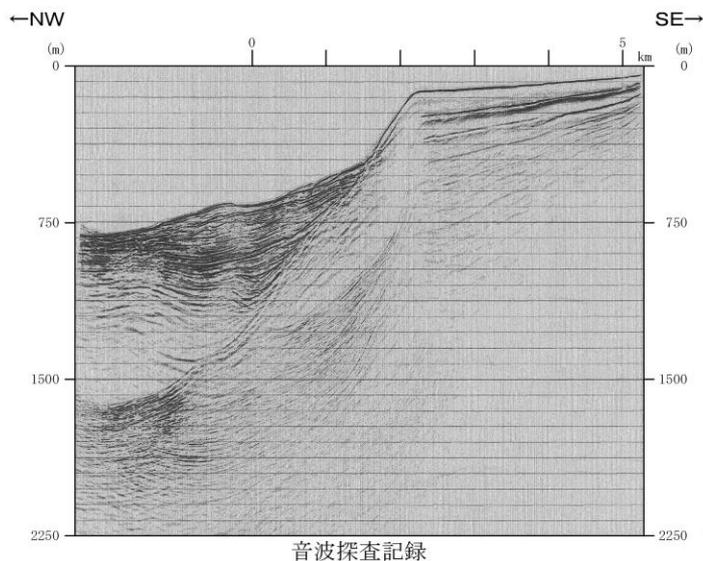
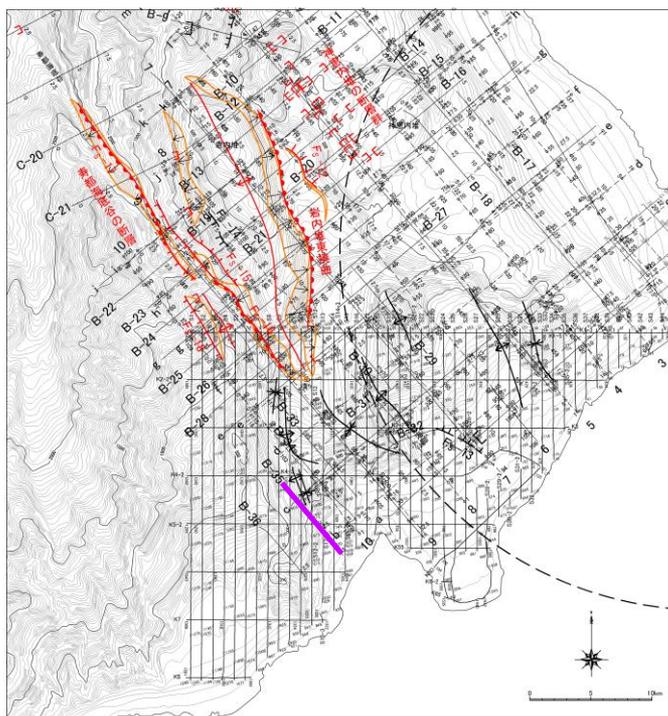
V.E. 約3

凡例

- | | | | |
|--|---------------------|--|-----------------------------|
| | I層 (完新統) | | F ₅ -10 断層及び断層番号 |
| | II層 (上部更新統) | | F ₆ -2 断層及び断層番号 |
| | III層 (中部更新統) | | 連続しない断層 |
| | IV層 (上部鮮新統～中部更新統) | | 背斜軸 |
| | V層 (鮮新統) | | 向斜軸 |
| | VI層 (始新統～中新統) | | ※赤は耐震設計上考慮 |
| | VII層 (始新統以下) | | |
| | VIII層 (中部更新統 (貫入岩)) | | |
| | 地層境界 | | |

岩内堆周辺の断層群の概要

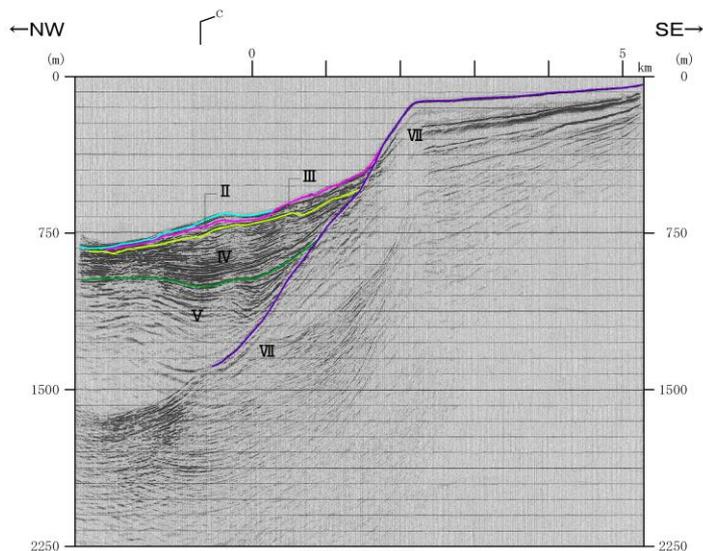
■ 岩内堆周辺の断層群の南方延長 (測線B-35)



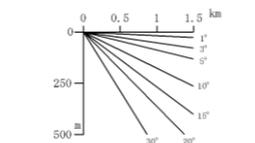
音波探査記録

- 凡例
- I 層 (完新統)
 - II 層 (上部更新統)
 - III 層 (中部更新統)
 - IV 層 (上部鮮新統～中部更新統)
 - V 層 (鮮新統)
 - VI 層 (始新統～中新統)
 - VII 層 (始新統以下)
 - VIII 層 (中部更新統 (貫入岩))
- 地層境界
 F₅-10 断層及び断層番号
 (変形) F₆-2
 連続しない断層
 背斜軸
 向斜軸

※赤は耐震設計上考慮



地質断面図

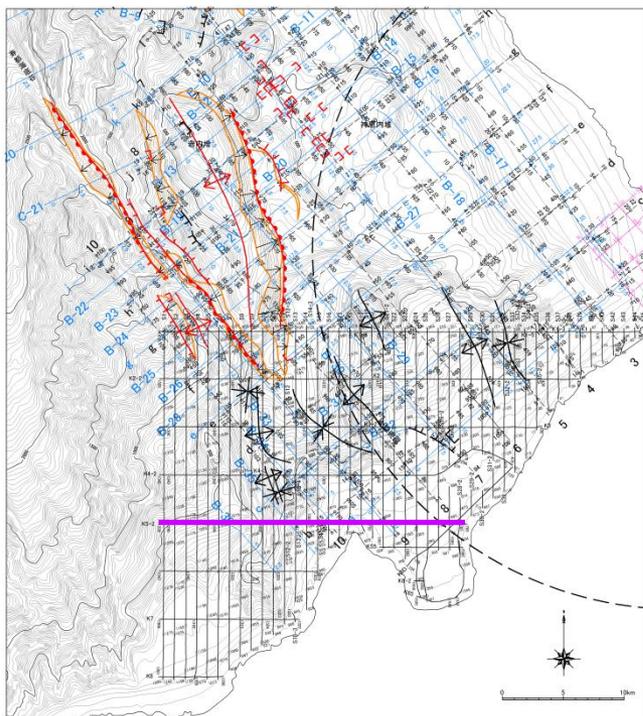


数字(角度)は水平・垂直が1:1の傾斜角度

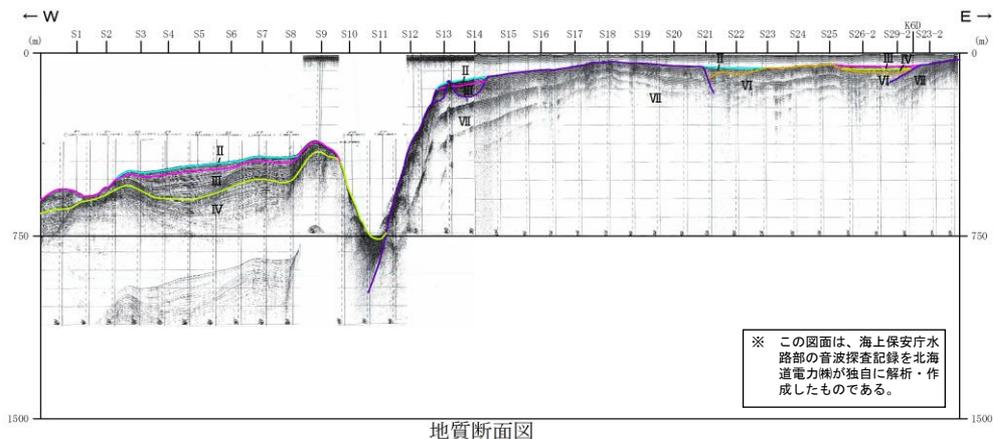
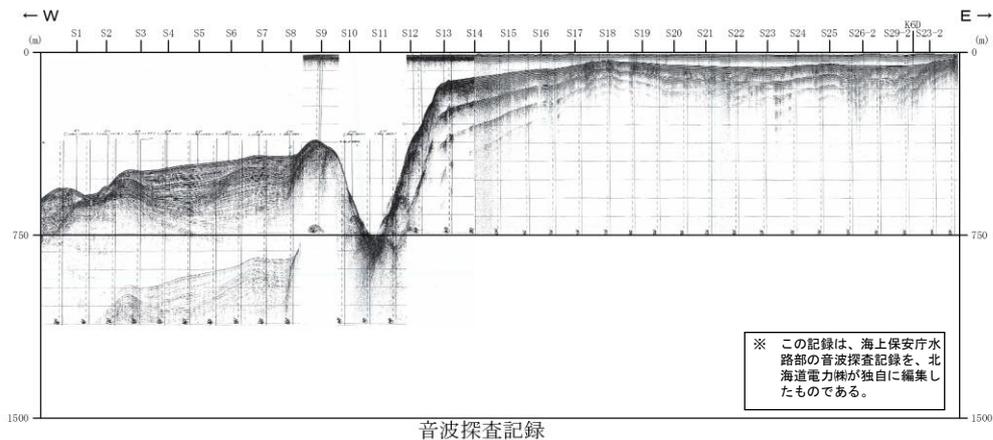
測線cで認められるような変形は認められない。

岩内堆周辺の断層群の概要

■ 岩内堆周辺の断層群の南方延長 (測線k5)



谷の東側斜面は、基盤(VII層)が分布し、基盤上部に変形は認められない。



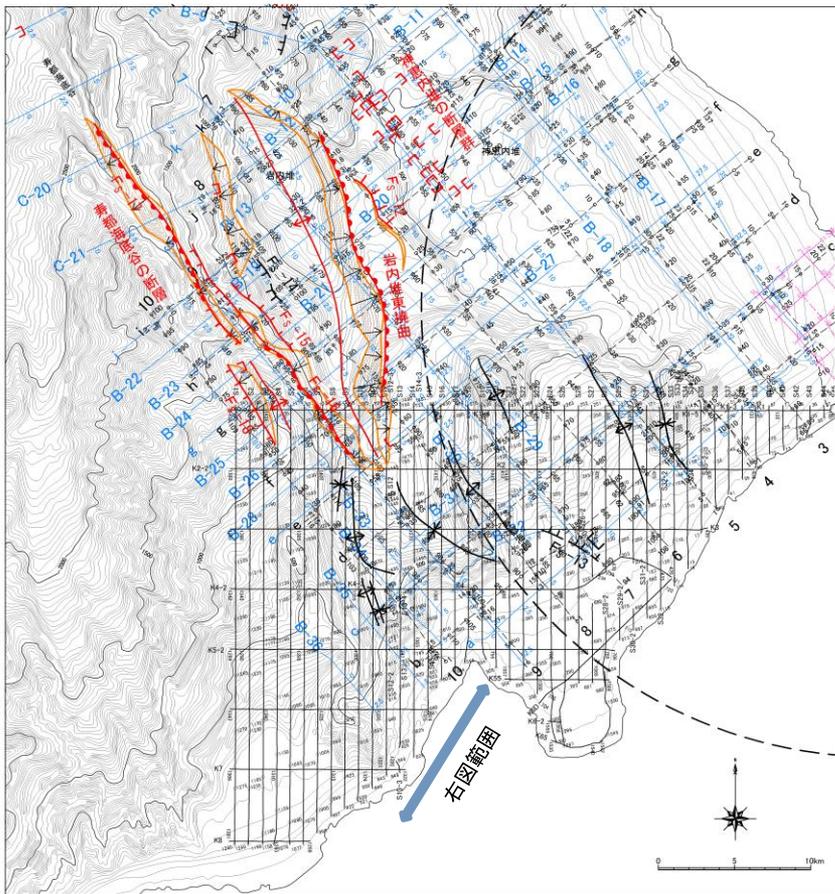
数字 (角度) は水平・垂直が1:1の傾斜角度

V.E. 約7.2

岩内堆周辺の断層群の概要

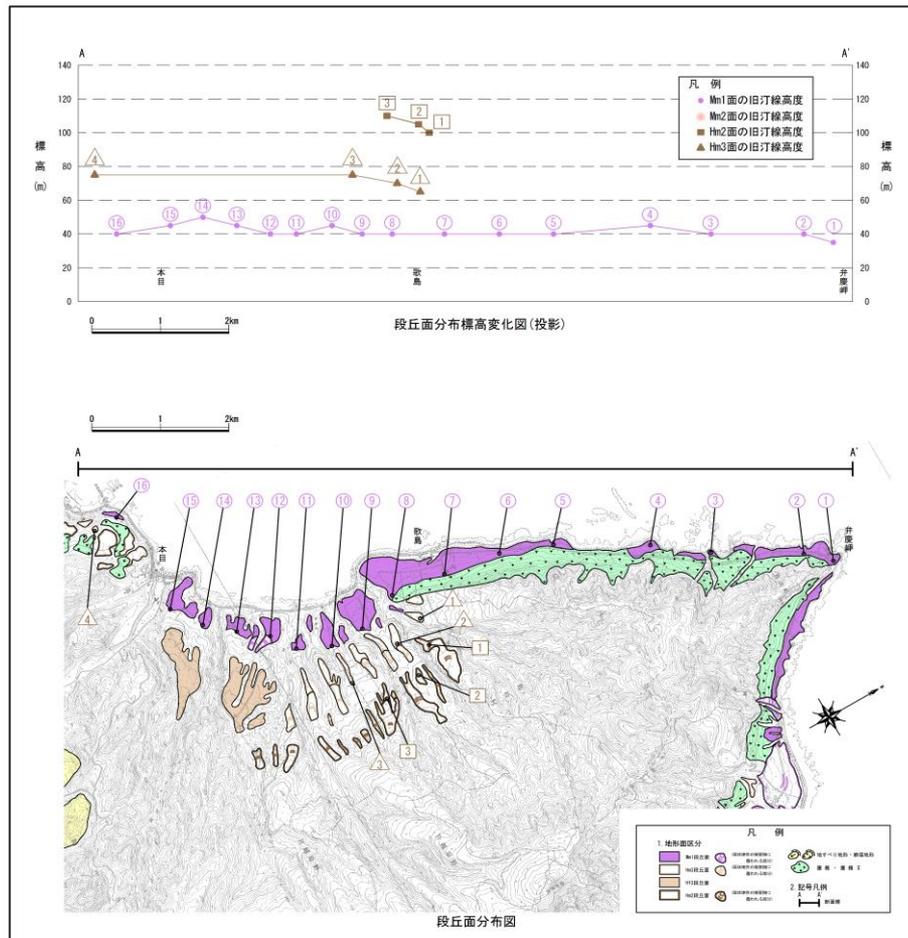
■ 弁慶岬西岸の海成段丘の分布標高

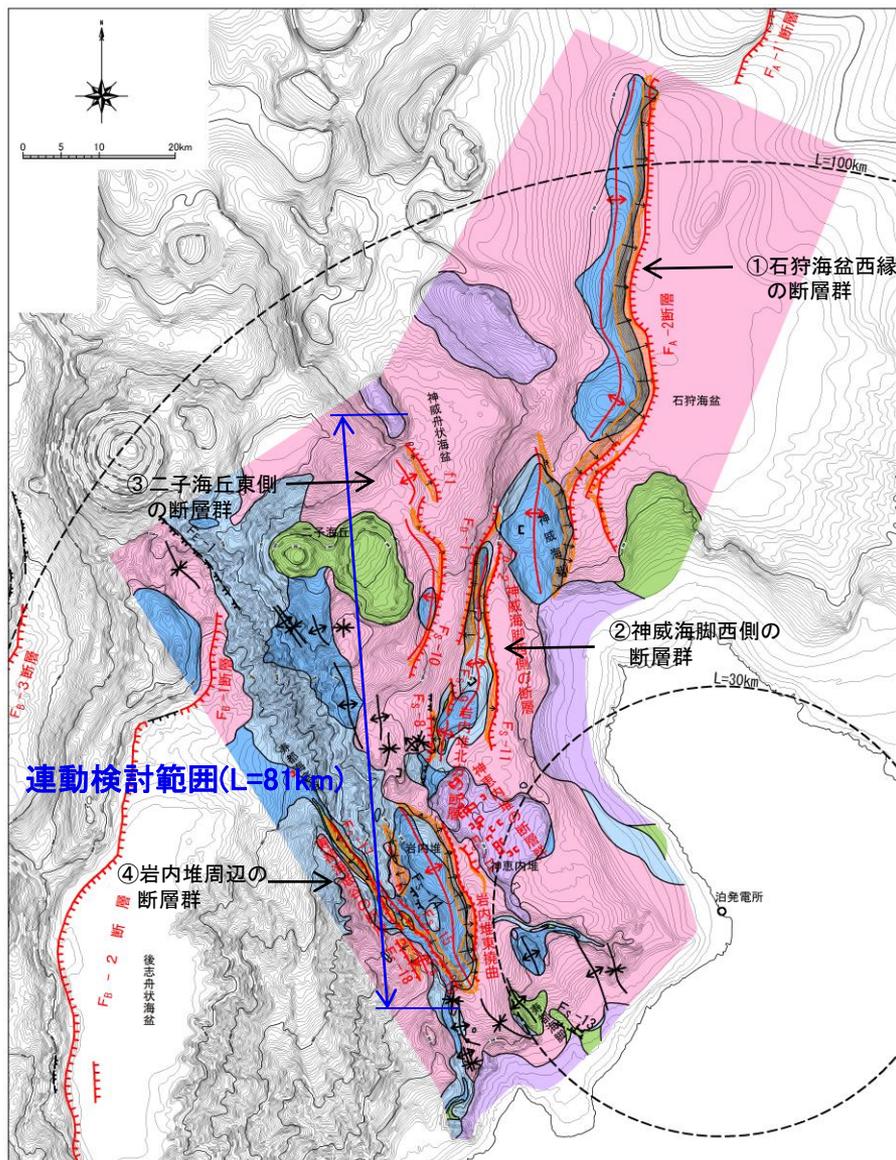
変形の延長方向に分布する弁慶岬西側沿岸のMm1段丘面(MIS5e)の分布標高に大きな差は認められない。



凡例

- 変形幅
 - 断層
 - 褶曲
 - 背斜軸
 - 向斜軸
 - 連続しない断層
 - C-11 音波探査測線 (北海道電力, 1997年) (エアガン, マルチチャンネル) (チャプソナー, シングルチャンネル)
 - SM-7W 音波探査測線 (北海道電力, 2006年) (フオーターガン, マルチチャンネル) (プーマー, マルチチャンネル)
 - 2 音波探査測線 (北海道電力, 1980年) (水中放電, シングルチャンネル)
 - K7 音波探査測線 (海上保安庁水路部, 1995年) (スバーカー, シングルチャンネル)
- ※赤は耐震設計上考慮





- 敷地前面海域は、 F_A-2 断層を西縁とする石狩海盆と、 F_B-2 断層を西縁とする後志舟状海盆の大地形に挟まれる海域である。この海域は、大陸斜面上に複数の小規模な地形の高まりと、それに調和的な活断層が認められる。敷地前面海域の断層は、石狩海盆や後志舟状海盆の西縁に認められる F_A-2 断層及び F_B-2 断層に比べ規模が小さく、複雑な断層群を形成している。
- 敷地前面海域の断層とそれに関連するIV層及びV層からなる地形の高まりは、大局的に東西を二子海丘、神威海脚等、南北を神恵内堆等のVI層及びVII層により形成される古い地形の高まりに規制されて分布し、古い地形の高まりを横断して連続するような活断層の分布は認められない。
- 岩内堆東撓曲と F_s-10 断層は、それぞれ神恵内堆の西方及び北方にNNW-SSE～N-S方向の個別の地形の高まりを形成する西傾斜の断層であるが、これらの断層の中間部となる二子海丘東側の南方延長部では、短い緩やかな変形が断続的に認められる。
- 岩内堆東撓曲と F_s-10 断層の間には、連続した地形や構造は認められないが、両断層ともほぼN-S走向で西傾斜であり、その中間部に短い緩やかな変形が断続的に認められる。また、これらの活断層の間に構造を大きく規制するような古い地形の高まりも認められないことから、 F_s-10 断層～岩内堆東撓曲(L=81km)の区間について、念のため連動を考慮した検討を行う。

凡例

地質時代	記号		説明
	第四紀	第三紀	
第四紀	更新世	I	変形幅
	中更新世	II	
	新更新世	III	
第三紀	中新世	IV	断層
	漸新世	V	
	始新世	VI	
先第三紀	白垩紀	VII	撓曲
	古第三紀	VIII	
先第三紀	白垩紀	IX	背斜軸
	古第三紀	X	
先第三紀	白垩紀	XI	向斜軸
	古第三紀	XII	
先第三紀	白垩紀	XIII	連続しない断層
	古第三紀	XIV	

※赤は耐震設計上考慮

- (1)海上保安庁水路部(1995):5万分の1海底地質構造図「寿都」.
- (2)小池一之・町田洋編(2001):日本の海成段丘アトラス, 東京大学出版会.
- (3)小疇尚・野上道男・小野有五・平川一臣(2003):日本の地形2 北海道, 東京大学出版会.